－所蔵作品紹介－

難波田　龍起　NAMBATA Tatsuoki

夜の生物苑

よるのせいぶつえん

作品データはこちら

〈水の上〉から14年を経過した作品である。その間に彼の作風は大きく展開した。昭和30年代は、日本の前衛画壇にフランスのアンフォルメル（不定形の意）絵画やアメリカの抽象表現主義絵画の影響が濃くなった時代で、難波田も影響を受けたが、絵具を物質的に扱ったり、強烈な拒否的画面を生み出す欧米の作品とは異なり、その詩人的な資質や生命の宇宙の探求といった本質的部分は変わることがなかった。

青みの濃い画面に、白黒のエナメルを垂らすドリッピング技法は抽象表現主義からの影響であり、一種の激しさを伴う表現になっている。しかしその画面は、奥底に叙情性を秘め、光源に集まる虫たちのように、あるいは暗がりの中の生命体の光跡のように複雑に交錯しながら、個性的で、普遍的な絵画の宇宙へと我々をいざなうのである。

「北海道立旭川美術館コレクション選集1982-1997」（1998年３月発行）より